代表選「蓮舫路線」強調

保守・リベラル 双方に配慮

民進・出馬表明

9月の民進党代表選で本命視される蓮舫代表代行が5日、名乗りを上げた。野党共闘を進めた岡田克也代表の後継とも目されるが、「蓮舫路線」を掲げて自立を強調。憲法改正への対応では「9条を守りつつ積極的に議論する」と語り、党内の保守、リベラル双方に目配りする姿勢を見せた。小池百合子東京都知事ら女性政治家の台頭を踏まえ、「ガラスの天井は壊したい」との意欲も示した。

▼1面参照

蓮舫氏は会見で、立候補について「スカイツリーというレベルではなく、富士山から飛び降りるくらいの覚悟だ」と表現した。所属グループを率いる野田佳彦元首相や、岡田氏らを念頭に「執行部側が裏で実権を握る」（中堅議員）との見方が党内にあることも意識し、「私がめざすのは蓮舫路線」ともアピールした。

蓮舫氏は今週、リベラルから保守まで幅広い党内勢力の重鎮や幹部と相次いで会談。会見では、「いろんな人と党の今後について話をした。ぜひ私が先頭に立ってやりたいと思った」と語り、自らの判断で出馬に踏み切ったと強調した。

憲法改正については、憲法9条の堅持を明言して「憲法に対案はない」としつつ「必要に応じて党内で議論し提言するのは当然の成り行き」とも発言した。

一方、野党共闘をめぐっては、国民連合政府構想を提唱する共産に対し、岡田氏と同様に「綱領や政策の違うところと政権をめざさない」と主張し、可能な範囲での選挙協力にとどめる「岡田路線」を踏襲する考えを示した。

参院議員の蓮舫氏には、党内から「代表が参院議員では『政権交代は考えていない』と公言するようなもの」（若手議員）との声もある。蓮舫氏は「いろんな覚悟を持って臨んでいる」と、将来に衆院議員へ転じることに含みを持たせた。

英国首相や米大統領選候補にも女性が選ばれるなか、女性政治家として野党第1党党首をめざす意気込みものぞかせた。安倍政権との違いを問われると「違うところしかないが、女性が代表になるところが一番違う」とアピールした。

代表選では、保守系の前原誠司元外相や長島昭久元防衛副大臣、玉木雄一郎衆院議員、長妻昭代表代行らが出馬を模索する。だが、「憲法などで考えが一致」（長島氏）と蓮舫氏を一定評価する声も広がっており、対立候補が固まるのには時間がかかりそうだ。

民進党代表選への出馬を表明する蓮舫代表代行＝5日午後、東京・永田町、鬼室黎撮影

憲法と野党共闘をめぐる立ち位置

	民進党執行部	蓮舫代表代行	非執行部
憲法	安倍政権下での憲法改正反対。議論はいいが首相は立憲主義を理解しているのか 岡田克也代表	憲法審査会が動いたら参加する。必要な条文が生まれたら党内で議論し提言する。9条は絶対に守る	議論は避けて通れない。しっかりと党の案を提示すべきだ 細野豪志元環境相
野党共闘	衆院選ですべての小選挙区で1対1の構図に持ち込んだ方がいい 安住淳 国会対策委員長	綱領や政策が違うところと一緒に政権を目指すことはありえない。野党が（市民に）向き合って呼応した動きは大切にしたい	一定の評価はするが共産党が旗を振る共闘はおかしい。政策を掲げ、（賛同する）野党と協力する 前原誠司元外相